令和5年度　岩国市立平田小学校　学校評価
（4段階評価）

自　己　評　価					学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教育課程・学習指導	学力調査等を活用したPDCAの確立	国や県の学力調査結果の分析を通して、本校の課題に応じた指導の実施	2	各調査の得点分布において、分布が偏る二つの層が存在することが本校の引き続きの課題である。学習に困り感をもっている児童の抽出と個別の達成目標の洗い出しを通した、個別の支援の一層の充実を図っていくことが必要である。	学年ごとの実態に応じた個別の支援が大切である。全県での学力状況の把握は高学年でのみ実施されているが、低・中学年においてもできるだけ早い段階から、子どもたちの学力状況について把握し、困り感に応じた支援を継続していってほしい。タブレット端末を活用した新たな学びの創造については、国内はもとより、世界的な流れでもあり、平田の子どもたちに将来役立つスキルを身に付させていってもらいたい。コロナ禍前の図書貸出冊数に戻ったことは喜ばしいことであり、今後も本に親しむ子どもを育ててほしい。	3.0
	主体的にかかわり合う授業づくり	授業における「発問構成」「かかわり合い」「ふりかえり」の明確な位置付け	3	道徳科の授業改善を通して、学校全体で実践を積み上げた「発問」「かかわり合い」「振り返り」のノウハウが他教科の授業改善にも確実によい影響を与えている。日々の授業を通した研修と授業改善の好循環を校外からの参画を加え、さらに充実させていく。		
	タブレットを端末を日常的に活用した学習習慣づくり	タブレット端末の持ち帰りを基本にした家庭学習の在り方の試行	3	家庭のWi-Fi・充電環境の整備については、来年度入学児童保護者に対しても情報提供を進めてきた。家庭での端末利用の促進と併せて取組をさらに加速していく。また、副教材の見直しとクラウドを念頭に置いた新たな学習方法についても検討していく。		
	読書の習慣化	読み聞かせ、選書会、読書推奨イベント等、本に親しむ機会の増加を通した読書活動の推進	4	委員会児童が主体となった働きかけを通して学校としての目標や意義が児童・教職員に浸透したことが評価できる取組であった。学級の図書室利用頻度も確実に上がっており、本年度の流れを次年度に引き継ぐとともに、個に応じた読書活動の充実を図っていく。		
生徒指導	あいさつの習慣化	学校外の人材との体験活動を通した絆づくり	3	児童のあいさつについての教職員の評価は年々高まっているが、地域での評価が上がらない。地域からは、「学校から離れるにつれ、あいさつができなくなる」との指摘があり、生活場面でのあいさつへの新たな取組について、具体的な方法を検討していく。	学校からの距離が離れれば離れるほど子どもたちのあいさつが少なくなっているようである。知らない人にあいさつをすることが難しいことも理解できるが、生活の場でのあいさつの習慣づくりも大切であり、取組の改善を期待したい。子どもたちの自己肯定感を学校・家庭・地域の同一歩調で進めるために、校外に浸透しやすいキャッチフレーズ等も有効ではないか。	2.3
	豊かな心の醸成	道徳科の授業づくりを通した自己肯定感の醸成	2	徐々にではあるが、自分自身に対する肯定的な見方に伸びが見られる。学校・家庭・地域が一丸となって、児童の成長や努力を価値付け、自分自身のよさを具体的に感じ取ることができるような取組の改善が重要である。		
	安心のある学校づくり	道徳教育の充実を通した受容的な学校風土づくり	2	「困ったときに、相談できる友達がいる」(児童86.3%)から、受容的な学級風土は着実に醸成されてきている。教師からの積極的な働きかけを通して児童の困り感を把握し、支援する体制の一層の充実を通して、学校生活への安心感を一層高めていく。		
家庭・地域社会との連携	学校運営への参画状況の向上	学校の情報発信の充実を通した地域とともにある学校づくりへの認知度の向上	3	平田小の地域連携教育に対する保護者の評価は高い反面、「学校が進めているコミュニティ・スクールについて知っている」(児童19.9%　保護者58.5%)と、CSや地域協育ネットについての理解が十分とはいえない。新たな情報発信のあり方について、検討していく。	コミュニティ・スクールや地域協育ネットについての理解の促進は、発信を継続することが大切であり、今後も改善に取り組んでいってもらいたい。地域行事への参加については、地域のニーズに合わせることも大切であり、地域行事の活性化に向け、必要感を充たす協力を充実させることを通してWin-Winの関係をより一層築いていってほしい。	2.7
	学校支援の充実	学校外人材の活用を通した「チーム学校」体制の確立	4	クラブ活動や家庭科の学習へのボランティア参加が増加したことが大きな成果と考える。校内の教育活動に地域の人材が参画する場を増加させ、児童とかかわり合いを一層充実させることを通して、Win-Winの関係構築を深めていくことが重要である。		
	地域貢献の充実	地域や平田中学校行事への参加	1	「ひらたげんきっこクラブ」のプログラムには、毎回数十名の児童が参加しており、児童を対象にした地域の活動に対する関心は高い。地域行事の情報発信窓口としての学校の機能強化が必要である。		
人材育成・業務改善	職場の人材育成風土の醸成	キャリアステージに応じたOJTの推進	4	校務分掌におけるOJTをさらに活性化するために、校務の整理と分掌の平準化を一層進めていくことが重要である。また、キャリアステージに応じて、今後身に付けさせたいスキルの具体的な設定等、人材育成会議の機能強化が求められている。	教職員からの高い評価が得られていることはよい。現代社会の状況を鑑み、働き方改革については今後も取組の改善が必要である。子どもたちの成長に不可欠な教育活動の充実が確実になされるよう留意しながら、一層の業務改善に取り組むことが重要である。子どもも教職員も心にゆとりをもった学校生活になるよう、地域も支援していく。	3.7
	業務の精選	ICTの活用による業務の効率化の推進	3	校務端末の活用、業務内容の見直し、電話対応、行事の精選、業務支援アシスタント等、様々な取組を今後も進めていきつつ、教職員個々のスキルアップと働くことへの意識の変容を図る新たな取組により、業務改善と働き方に対する意識改革の両立を図っていく。		
	働き方改革の推進	年休の取得可能日の設置を通した年休取得日数の増加	4	年休の取得が進んでいることから、週末放課後の年休取得増までには至っていないのが現状である。働き方への意識の変容を促す観点から、「ノー残業デー」の取組等、業務のペース配分を考える習慣づくりを検討していきたい。		